

公表

事業所における自己評価総括表

児童発達支援

○事業所名	こども発達未来スタジオippo 牛津教室		
○保護者評価実施期間	令和8年2月1日	～	令和8年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 2名
○従業者評価実施期間	令和8年2月1日	～	令和8年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月1日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・子どもの発達段階に応じたバリエーション豊かな支援プログラムを提供していること。	・支援プログラムの多様化 感覚統合、運動療育、言葉・クッキング・お出かけ・SST活動など、バリエーション豊かな支援を実施する。	・職員研修の強化 最新の療育手法を学ぶ研修を実施し、より質の高い個別支援計画を提供する。
2	・安心できる雰囲気づくりをおこない、褒め自己肯定感のアップやモチベーションのアップを図っていること。	・ゆっくり関わり、活動や生活を通じて褒める文化の強化 職員間で統一した褒め言葉を使用し、ポジティブなフィードバックを徹底する。	・保護者向け懇談会の実施 保護者の方も相談できる環境を設定する。 子どもの成長や頑張りを共有することで、共に成長を喜び気持ちに余裕が生まれるようにしていく。
3	・集団活動に適應ができるように、集団療育を大切にしていること。	・集団活動の工夫 子どもの特性に応じて、段階的に集団適應力を育てる。	・集団療育プログラムの見直し 子どもの適應度に応じて、活動の内容や進め方を定期的アップデートする。「先生と一緒に」から「お友達と一緒に」を経験していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・研修による専門知識の向上を図ること。(療育の質の向上)	・職員の経験や知識にばらつきがある。 ・最新の療育手法や支援技術の導入が十分ではない。	・福祉専門eラーニングシステムを活用し知識を学ぶ。 ・外部研修や学会への参加を奨励し、最新の支援技術を取り入れる。 ・事例検討会を開催し、職員同士の知見を共有する。
2	・保護者支援の強化を図ること。	・保護者への情報提供が十分ではない。 ・保護者が子どもの成長を実感しやすい支援体制が求められる。	・定期的な保護者向け勉強会や相談会を開催し、家庭での支援方法を共有する。 ・保護者との連携を強化し、支援の進捗をわかりやすく伝えるツールを導入する。 ・個別相談の機会を増やし、より細やかな支援を提供する。
3	・職員の情報共有の徹底を図ること。	・情報の伝達ミスが発生することがある。 ・職員間の連携が十分でない場合がある。	・職員間での定例ミーティングを設定し、日々の支援内容を共有する。 ・新人職員向けのマニュアルを整備し、統一された支援が提供できる体制を構築する。